

# Technics

ステレオカセットデッキ

品番 RS-TR4750

取扱説明書



- この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保存し、必要なお読みください。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電

RQT2366-T

このたびは、ステレオカセットデッキをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

## もくじ

### 準備

- 必ずお守りください…………… 3
- 各部のなまえ…………… 4
- 接続のしかた…………… 5
- ワイヤードリモコンの準備…………… 6

### 再生

- テープを聞く…………… 7
- 2本のテープを続けて聞く…………… 9
- 巻戻し・早送りする…………… 10
- 曲の頭出しをする(TPS機能)…………… 10
- リニアカウンター…………… 11

### 録音

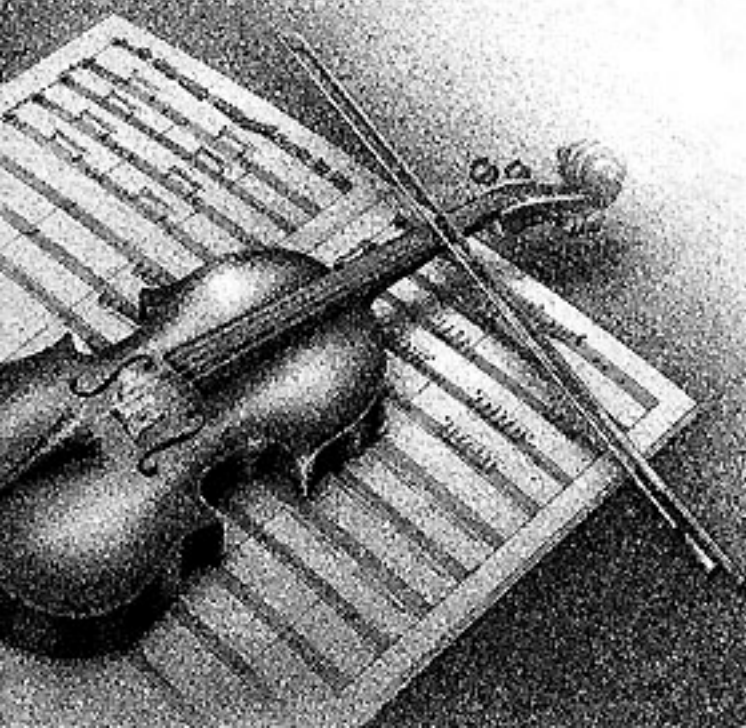
- 録音する…………… 12
- ATC機能について…………… 14
- 2本のテープに続けて録音する…………… 15
- 2本のテープに同時に録音する…………… 16
- 無音部を作る…………… 17
- 録音したテープの音を消す…………… 17
- テープからテープへ録音する…………… 18

### リモコン

- ワイヤードリモコンを使う…………… 20

### 「参考に」

- テープについて…………… 21
- お手入れ…………… 21
- 著作権について…………… 22
- 定 格…………… 22
- 故障かな!?…………… 23
- アフターサービスについて…………… 裏表紙



# 必ずお守りください

## 電源は、AC（交流）100Vで



電源コードは正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると危険です。

- プラグを持つ
- ぬれた手でさわらない
- 重いものを載せない
- 無理に曲げない

## 加工・改造・異物の挿入はしない



感電や故障の原因になります。特にお子様にはご注意ください。

## 水・薬品はかからないように



引火・火災や感電の恐れがあります。また、本機の上に可燃性ガスの入ったヘアスプレーなどを置かないでください。

## 指を入れないで



カセットホルダーが閉まる時に指をはさむおそれがあります。

## 設置は安定した、風通しのよい所に



キャビネットや部品を痛めますので、次のようなところは、避けてください。

- 湿気の多い所
- 倉庫などほこりの多い所
- 直射日光が当たる所など温度が高い所

## 長期間使用しないときは



思わぬ事故を避けるため、電源コードをコンセントから抜いておいてください。

## 万一、故障が起きたら



電源コードを抜き、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

## 音のエチケット

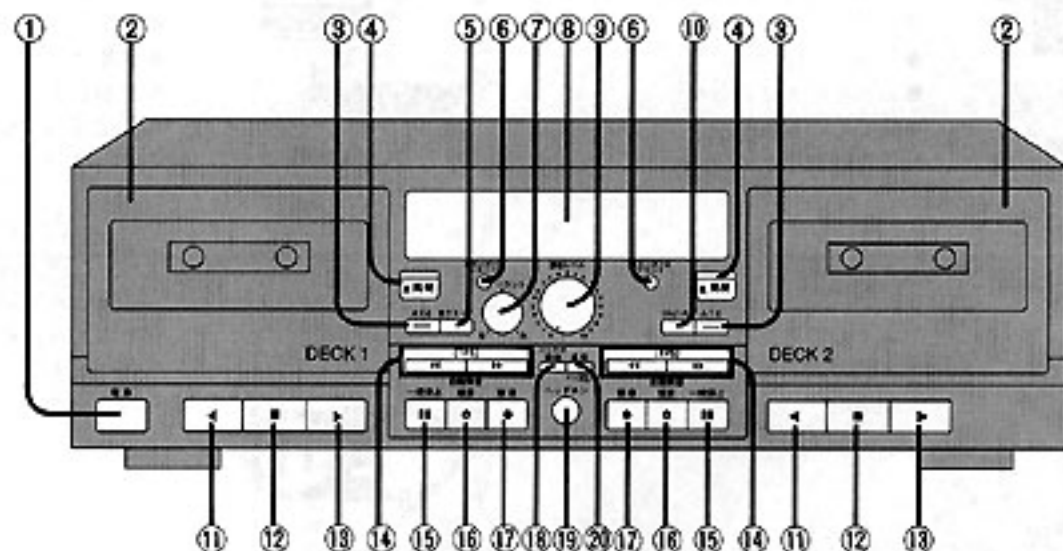
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット  
シンボルマーク

# 各部のなまえ

同じ数字が2つある場合(② など)は、左側がデッキ1の、右側がデッキ2の操作部です。



番号	なまえ	参照ページ
①	電源ボタン	7
②	カセットホルダー	—
③	ATC(オートテープキャリブレーション)ボタン	12
④	カセットホルダー開閉ボタン	7
⑤	走行モード切換ボタン	7,12
⑥	カウンターリセットボタン	11
⑦	録音バランス調整つまみ	13
⑧	ディスプレイ部	—
⑨	録音レベル調整つまみ	13
⑩	ドルビーNR切換ボタン	7,12
⑪	◀ (うら面再生・録音開始)ボタン	7,13
⑫	■ (停止)ボタン	7,13
⑬	▶ (おもて面再生・録音開始)ボタン	7,13

番号	なまえ	参照ページ
⑭	◀◀, ▶▶ [TPS] (巻戻し/早送り/頭出し)ボタン	10
⑮	⏸ 一時停止ボタン	7,13
⑯	● 自動無音録音ボタン	17
⑰	● 録音ボタン	12
⑱	シンクロダビング開始ボタン	18
⑲	ヘッドホンジャック	8
⑳	ダビング速度切換ボタン	18



# 接続のしかた



## 付属品

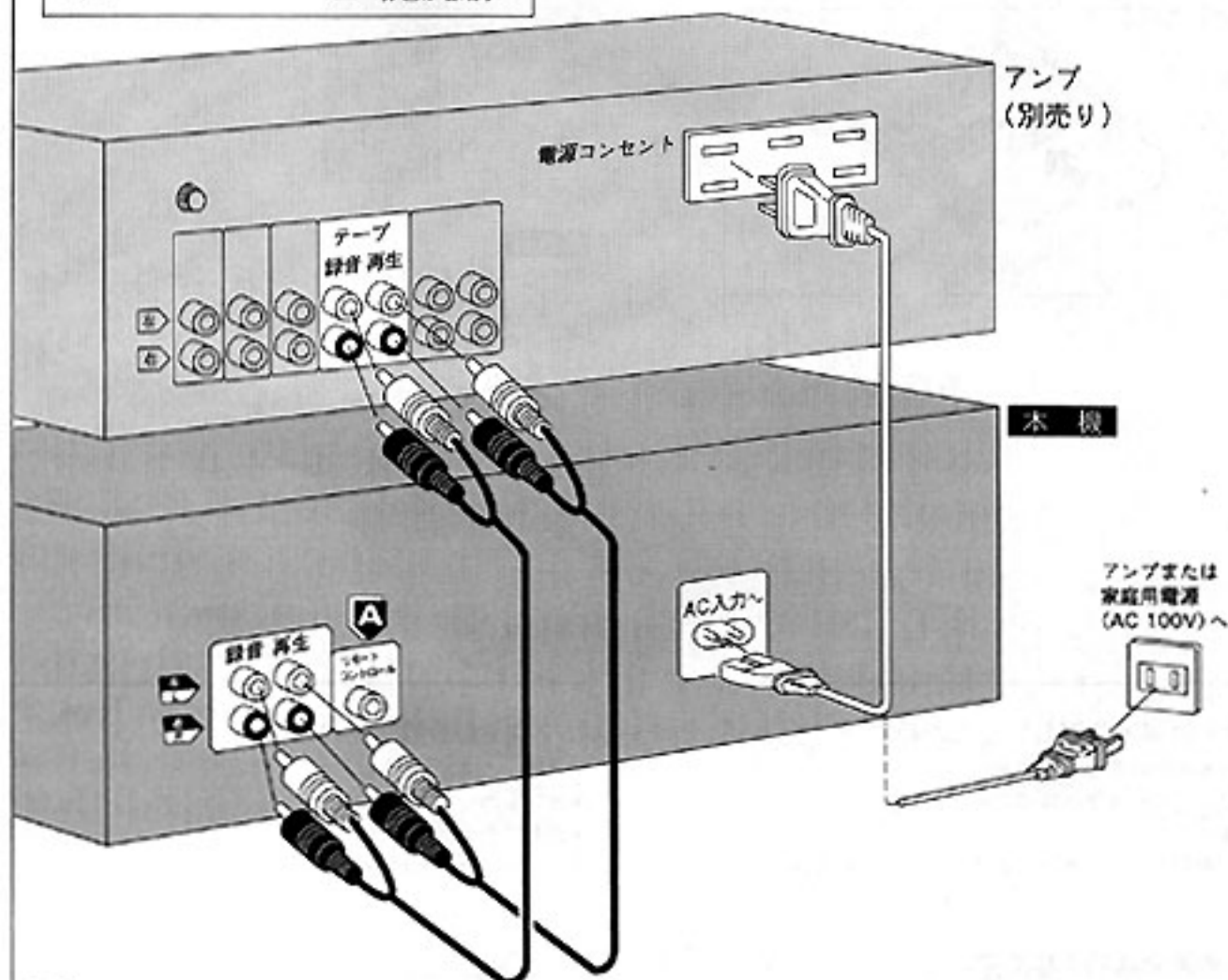
接続の前に付属品を確かめてください。

- ステレオ ビンコード (2本)    電源コード (1本)    ワイヤードリモコン (1コ)  
(EURSBAC00C1A)    リモコン用乾電池  
(単3形) (2コ)



ステレオビンコードの接続は

- 白色は左端子へ  
→ 赤色は右端子へ

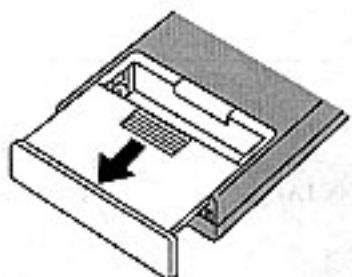


**A** ワイヤードリモコンを接続するには (☞ 6ページ)

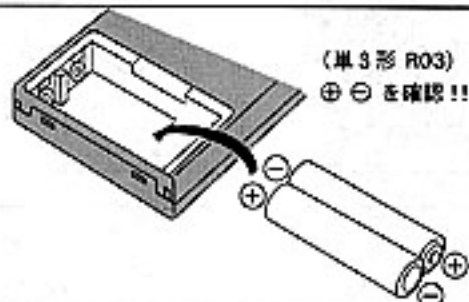
# ワイヤードリモコンの準備

## 乾電池の入れかた

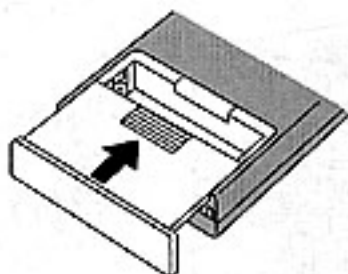
1



2



3



### 乾電池の破損・液漏れ防止のために

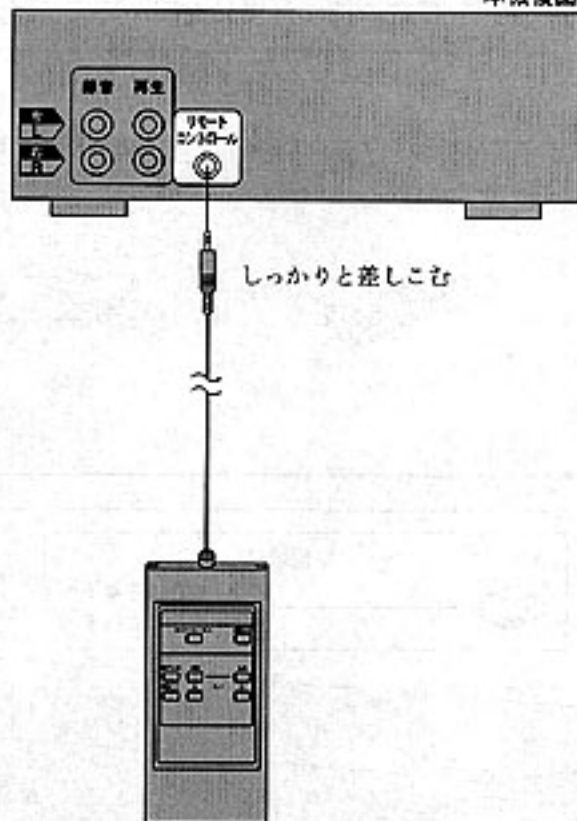
- 新旧・異種の乾電池は混用しない。
- +プラスと-マイナスは正しく入れる。
- 充電をしない。
- 長時間使用しないときは、乾電池を取り出しておく。
- 火の中への投入や、ショート、分解、加熱などはしない。

### 乾電池の寿命は約1年です。

リモコンを操作しても働かないときは、乾電池を交換してください。

## ワイヤードリモコンの接続

本機後面



### ご注意

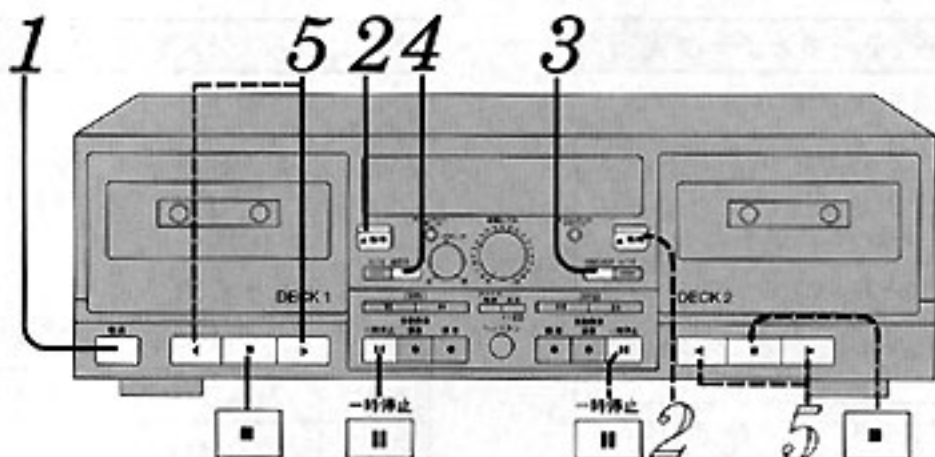
ワイヤードリモコンのコードを延長して使用しないでください。  
コードを強く引っ張らないでください。プラグがゆるみ操作不良の原因になります。

### リモコンの故障防止のために

- 分解、改造をしない。
- 重いものを載せない。
- 直射日光の当たる所に放置しない。
- ジュースなど液状のものをこぼさない。

# テープを聞く

- ・ ノーマル、クローム、メタルテープが使えます
- ・ デッキ1、2どちらでも同じ操作が行えます



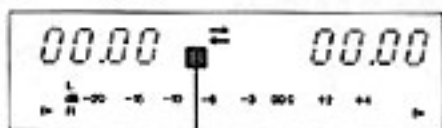
下記操作は、デッキ1の再生を例に説明しています。

**1** 「電源」ボタンを押す  
(電源が入る)

**2** 「**△** 開/閉」ボタンを押し、  
テープを入れる  
再度ボタンを押すと、カセットホルダーが閉まります。

おもて面 → 裏面  
テープ面を下に

**3** 「ドルビーNR」ボタンを押  
し、ドルビーNRのタイプ  
を選ぶ



ボタンを押すたびに、**B**→**C**→消灯の順で切り換わります。

録音時のタイプと同じタイプを選んでください。  
ドルビーNRシステムで録音されていないテープのときは、表示を消してください。

**4** 「走行モード」ボタンを押  
し、好みの走行モードを選  
ぶ

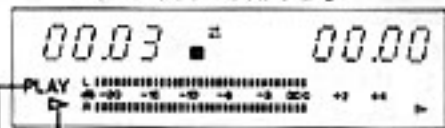


ボタンを押すたびに → → の順で切り換わります。

- : 片面再生
- : 両面再生 (8回まで)
- : 両面再生 (1回のみ)
- (くわしくは、8ページ参照)

**5** 「**◀**」または「**▶**」ボタンを  
押す  
(再生が始まる。)

- ▶**: おもて面から聞くとき
- ◀**: 裏面から聞くとき



点灯 再生しているテープ面を示しています。

デッキ2で再生するときは、手順2と5で、デッキ2用のボタン(2.5)を押してください。

## ■再生を一時停止するには

押す  
“PLAY”表示が点滅します。  
(再び始めるときは、再度押す。)

## ■再生を止めるには

押す

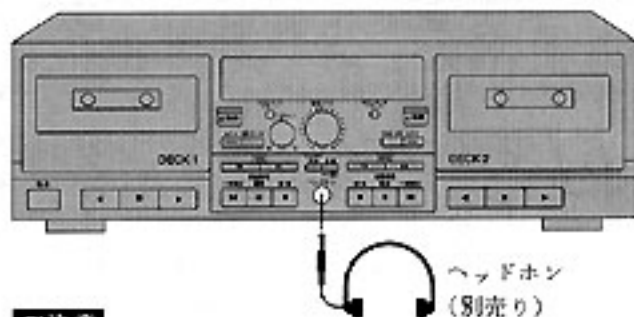
## テープを聞く (つづき)

### テープ再生時の走行モードとテープ走行

各モードによって次のようにテープ走行が異なります。

モード	テープ走行のしかた
 	テープの片面（おもて面またはうら面）のみ再生し、再生が終わると自動停止
	テープの両面を8回くり返して再生した後、自動停止 （うら面から始めると、おもて面の再生は7回になります。）
	片側のデッキにのみテープが入っているとき テープの両面を1回くり返した後、自動停止 （うら面から始めると、おもて面は再生しません） 両側のデッキにテープが入っているとき デッキ1のおもて面とうら面、デッキ2のおもて面とうら面を8回くり返して再生した後、自動停止 （デッキ2から始めると、デッキ1は7回になります。）

### ヘッドホンで聞くとときは



#### ご注意

本機ではヘッドホンの音量を調整することはできませんので、耳を刺激するような大きな音量の場合、長時間聞くことは避けてください。

### オートテープセレクト機能について

本機は、テープを入れると自動的にテープの種類（ノーマル、クローム、またはメタル）を識別します。

### ドルビーNRシステムとは


「サー」という高音域の雑音（ヒスノイズ）を低減するために開発されたシステムです。  
録音時に高い周波数部分のレベルを上げ、再生時にその分だけレベルを下げて雑音を減らします。

### ドルビーNRタイプについて

本機では、BタイプとCタイプの2種類が選べます。

タイプ	効果
B	ノイズは約1/3になります。
C	ノイズは約1/10になり、より優れたノイズ低減効果が得られます。


ドルビーNRの効果は、録音時と再生時に同じタイプを使うことによって得られます。

●ドルビーNR(  )と表示された市販テープはBタイプです。

### ご参考

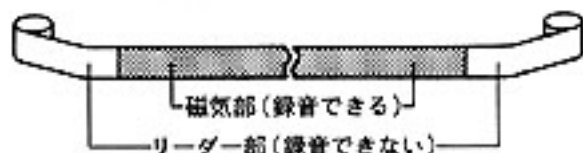
本機はドルビーNRシステムの他に、録音時の高域特性を自動的に改善するドルビーHXプロシステムを搭載しています。

このシステムは録音時にのみ働くため、本機で録音したテープを他のデッキで再生しても同じ効果を得ることができます。

ドルビーノイズリダクション及びHXPROヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンスリングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HXPROはバングアンドオルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号  及びHXPROはドルビーラボラトリーズライセンスリングコーポレーションの登録商標です。

### クイックリバース機能について

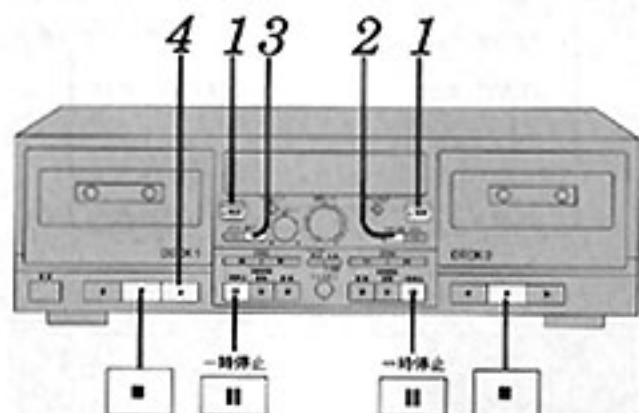
テープのリーダー部（テープの透明部分）を検知して、自動的に約1秒で再生（録音）方向を切り換えます。





# 2本のテープを続けて聞く

デッキ1の両面を再生した後、デッキ2の両面を再生します。(最大8回までくり返し)



1



デッキ1とデッキ2の「**▲**開/閉」ボタンを押し、両デッキにテープを入れる

再度ボタンを押すと、カセットホルダーが閉まります。

なお、この再生の場合、ドルビーNRのタイプをデッキ1と2で別々に選ぶことはできません。

同じタイプ(またはオフ)で録音されたテープの使用をおすすめします。

2



「ドルビーNR」ボタンを押し、ドルビーNRのタイプを選ぶ

録音時のタイプと同じタイプを選んでください。

3



「走行モード」ボタンを押し、「∞」モードを選ぶ

4



デッキ1の「▶」ボタンを押す  
(再生が始まります。)

### ご参考

この再生は、デッキ1のうら面やデッキ2からも始めることができます。(テープ走行のしかたは左ページ参照)

### ■再生を一時停止するには



再生中のデッキの「**||**一時停止」ボタンを押す

(再び始めるときは、再度押す。)

### ■再生を止めるには



再生中のデッキの「**■**」ボタンを押す

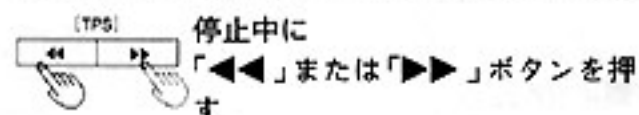
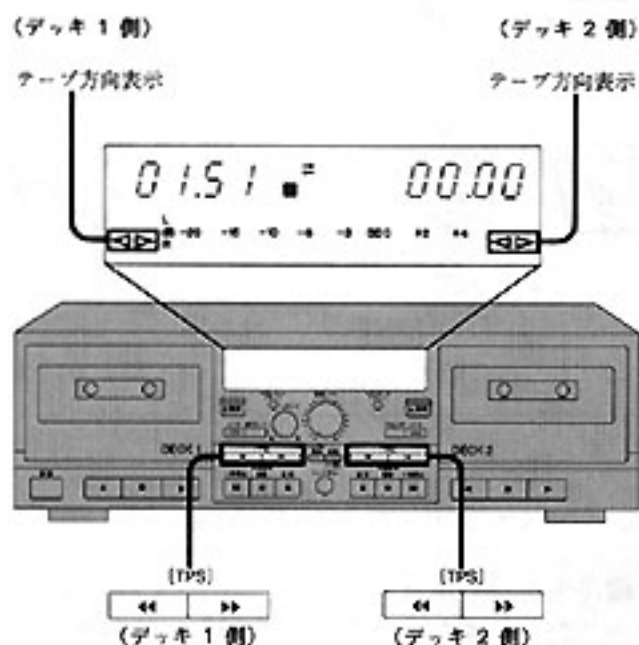
テープ始めのリーダーテープ部を検知させないために、再生(または録音)を始めて約15秒後に機能します。ティックリパースが動作しないときは、テープ終端で反転します。

### ご注意

- リーダー部のないテープのときは働きます。
- リーダー部に色のついたテープ、ごみやほこりのついたテープ、磁気部分の薄いテープのとき、また強い光(直射日光やライトなど)がカセットホルダーにあたったときには誤動作する場合があります。

# 巻戻し・早送りする

# 曲の頭出しをする (TPS 機能)



本機はテープの両面再生が可能のため、テープ方向表示の向きによって動作が異なります。

テープ方向表示	巻戻しする	早送りする
▶	◀◀	▶▶
◀	▶▶	◀◀

• デッキ 1 と 2 を同時に操作することもできます。

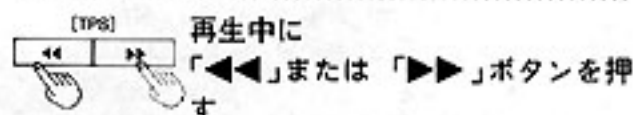
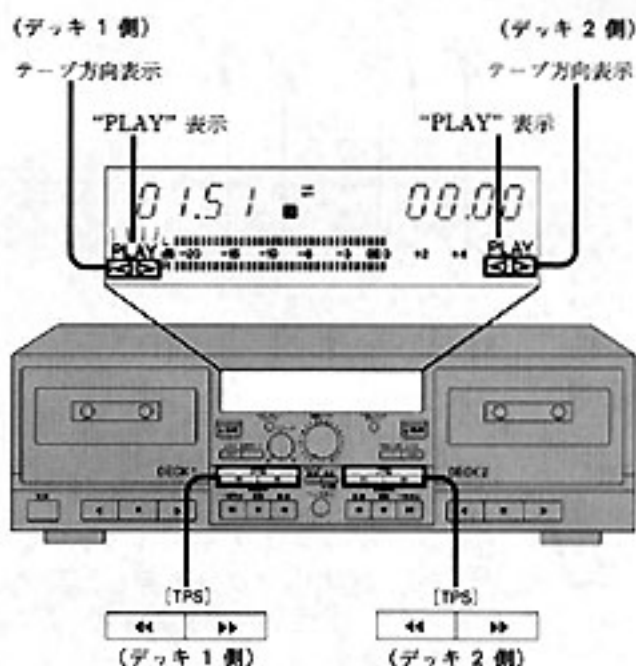
## 高速走行について

本機は、巻戻し・早送りや頭出しの速さが自動的に通常の約2倍になる高速走行の機能を備えています。  
(なお、テープ保護のためテープ終端近くで、通常の速さに戻ります)

### ご注意

テープ中間付近からスタートすると、高速走行しない場合があります。

(TPS: Tape Program Sensor)

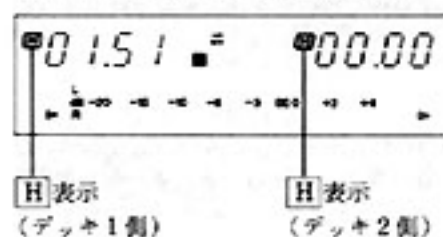


(曲の頭まで巻戻しまたは早送りされた後、自動的に再生が始まります。)



本機はテープの両面再生が可能のため、テープ方向表示の向きによって動作が異なります。

テープ方向表示	今聞いている曲の頭に戻って再生	次の曲の頭から再生
▶	◀◀	▶▶
◀	▶▶	◀◀

高速走行中は、**H**表示が点灯します。





# リニアカウンター

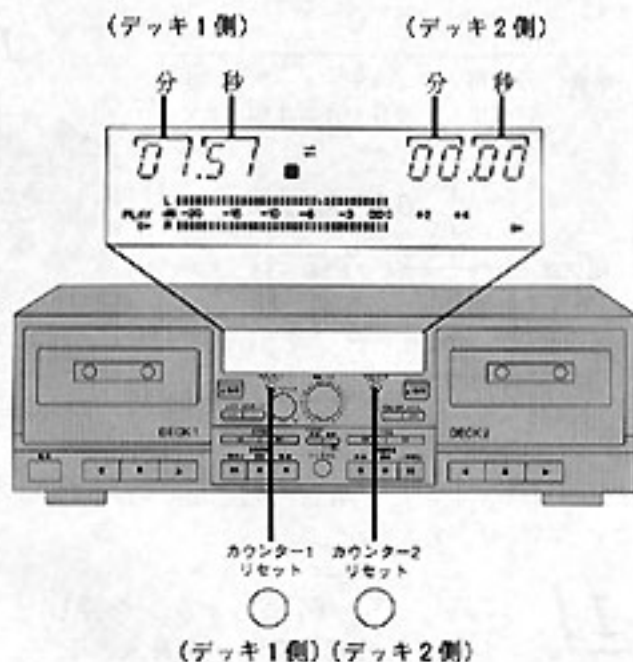
- TPS機能の動作中は、「PLAY」表示が早く点滅します。
- 現在聞いている曲から数曲先または、数曲後の曲を頭出ししたいときには、好みの曲の頭出しができるまで同じ操作をくり返してください。
- リバースモードが「」または「」になっているときは、テープの終端で反対面に切り換わり、続けてTPS機能が働きます。

## ご注意

TPS機能は、曲間の無音部を利用するため、次のような場合正常に働かないことがあります。

- 曲間が4秒未満のとき
- 無音部がないとき（マイクから録音したときなど）
- 曲のなかで特にレベルの低いところや無音部があるとき（クラシックなど）
- 曲の始めから10秒以下、または次の曲の頭まで10秒以下のところで「」または「」ボタンを押したとき
- 徐々に録音レベルを上げて録音するフェードイン録音や、その反対に徐々に録音レベルを下げて録音するフェードアウト録音をしているとき

リニアカウンターは、テープ走行の経過時間（目安）を表示します。



## ■カウンター表示をリセットするには

カウンター1  
リセット



「カウンター1(2)リセット」ボタンを押す

（カウンター表示が「00.00」になります。）



## ご参考

テープ走行がうら面の場合は、カウンターの数字は逆に減っていきます。そのとき、「00.00」以後はマイナス表示（例：-00.08）になります。

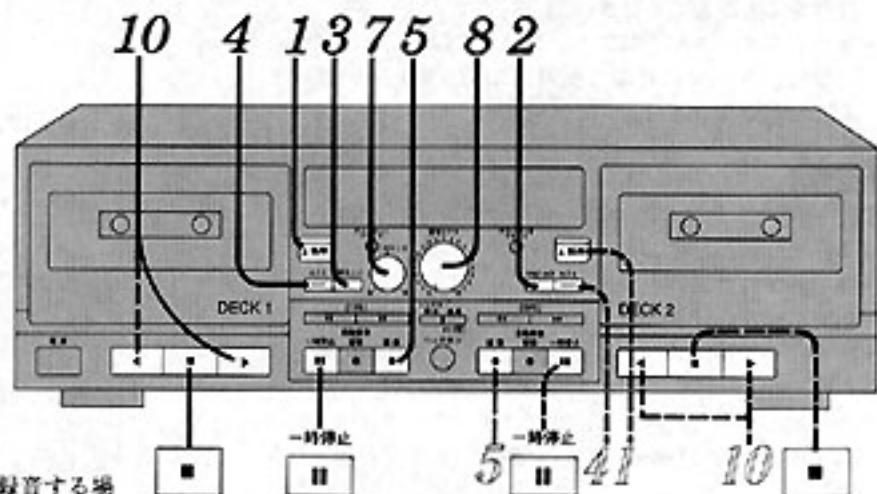
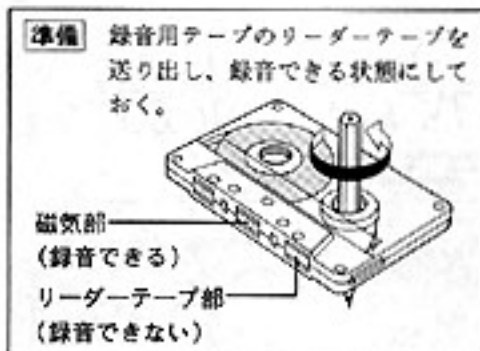
## ご注意

リニアカウンターはデジタル時計ではありません。実際の録音・再生時間とカウンター表示との間には数分の誤差が生じます。

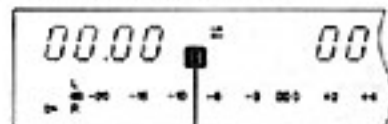
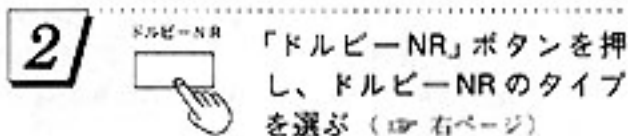
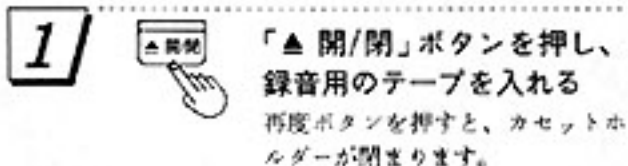
## ■高速走行中に通常の速さに戻すには

現在の走行方向と同じ向きの  
「」または「」ボタンを押す

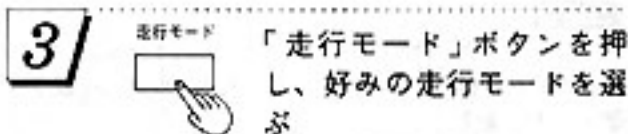
本機は、テープに合った録音状態を自動的に設定するATC機能(14ページご参照)を装備しています。録音するときは、この機能を使って行うことをおすすめします。



下記操作は、デッキ1でATC機能を使って録音する場合を例に説明しています。



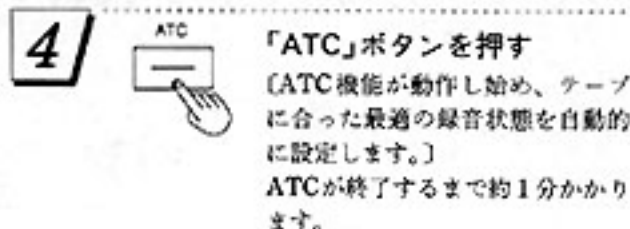
ボタンを押すたびに、B・C・消灯の順で切り換わります。



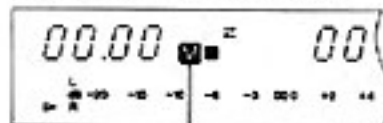
ボタンを押すたびに、⇒⇄⇆の順で切り換わります。

⇒ 片面だけ録音して自動停止

⇄, ⇆ 両面(おもて面からうら面)を録音して自動停止

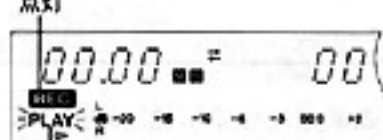
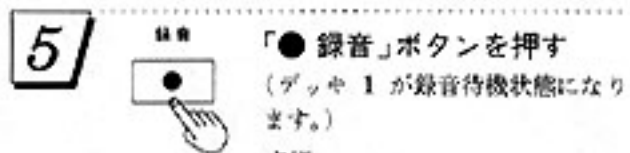


設定が終わると  
テープが設定を始めた位置まで巻戻され、停止状態になります。

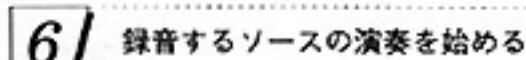


ATCが設定されたことを示します。

[ATCを設定しなくても、録音は行えます]



点滅



注意 ワイヤードリモコンを使って録音する場合は、必ず20ページをお読みください。

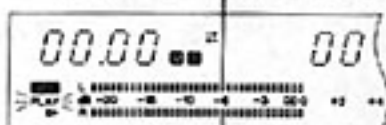


7



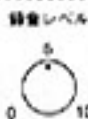
（通常は「バランス」つまみをセンター位置にしてください。）  
必要ならば、「バランス」つまみで録音の左右バランスを調整する。

レベルメーター（左チャンネル）



レベルメーター（右チャンネル）

8



「録音レベル」つまみで録音レベルを調整する  
（100% 右記）

9

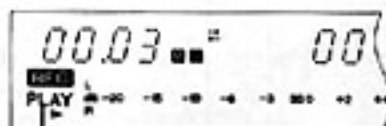
ソースの演奏を止める

10



「◀」または「▶」ボタンを押して録音を始め、録音するソースを演奏する

- ▶：おして面から録音
- ◀：うら面を録音



点灯

**ご注意** 両面録音をするときは、必ず「▶」ボタンを押してください。

デッキ 2 で録音するときは、手順 1、4、5、10 でデッキ 2 用のボタン（1、4、5、10）を押してください。

### 録音を一時停止するには



押す（再び始めるときは、再度押す。）

### 録音を止めるには



押す

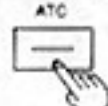
### ATC 機能を解除するには

ATC 設定中



押す

ATC 設定後



押す

ATC 設定中に **M** 表示が高速点滅になったときは以下のような理由で設定できないことを示しています。

- テープが終端のリーダーテープ部に達している
- テープがひどく傷んでいる
- 本機のヘッドがひどく汚れている
- テープ種類識別穴のないメタルテープなど、規格外のテープを使っている

### ご注意

- ATC 設定後、カセットホルダーを開けると設定された内容は解除されます。
- テープの途中から ATC 設定をするときは設定を始める前の曲から約 2 秒以上の無音部を作ってください。

### ドルビー NR タイプについて

ドルビー NR の効果は、録音時と再生時に同じタイプを使うことによって得られます。下記の表を参考に B タイプまたは C タイプを選んで録音してください。

タイプ	録音時の使いかた
B	再生するデッキが B タイプのみを備えている場合
C	再生するデッキが C タイプを備えている場合、または本機だけを使う場合

ドルビー NR システムで録音したテープには「B」「C」の区別を明記することをおすすめします。

（ドルビー NR の効果については、8 ページをご参照ください。）

### 録音レベルの調整

録音レベルが高すぎるとひずみの多い録音になり、低すぎるとテープ特有のヒスノイズが気になります。

上手な録音をするために、レベルメーターに表示される入力レベルの最大値が、使用するテープの基準録音レベル（（ ）内の数値）を越えないように「録音レベル」つまみで調整してください。

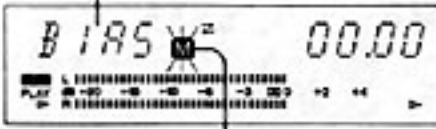
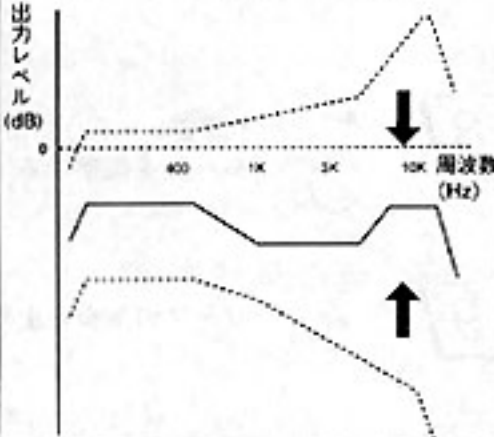
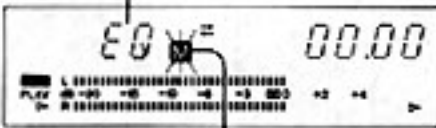
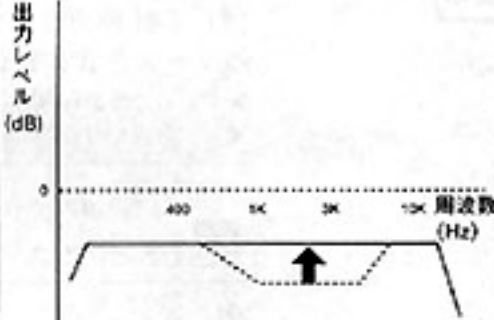
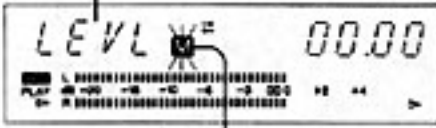
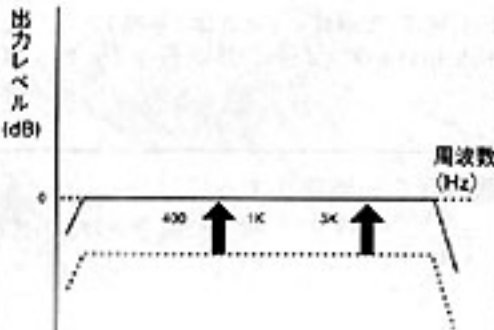


ノーマル、クロームテープ (0)      メタルテープ (+2)

# ATC 機能について

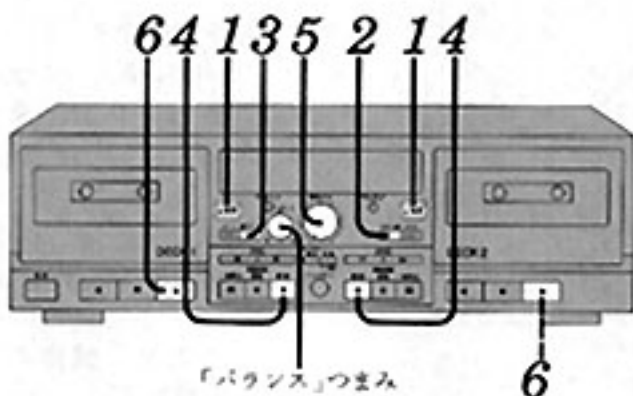
ATC(Auto Tape Calibration)機能とは、セット内部で発生させたテスト信号を録音して、テープの特性に合わせたバイアス、イコライザー、テープ感度の補正を自動的に設定する機能です。

下表は、デッキ 1 で設定時のディスプレイ表示と本機の動作を示しています。

	ディスプレイ表示	本機の動作
①バイアス	<p>"BIAS" 表示</p>  <p>点滅</p>	<p>400 Hz と 10 kHz の出力レベルが同じになるようにバイアスを調整しています。</p> 
②イコライザー	<p>"EQ" 表示</p>  <p>点滅</p>	 <p>400 Hz と 3 kHz の出力レベルが同じになるようにイコライザーを調整しています。</p>
③テープ感度の補正	<p>"LEVL" 表示</p>  <p>点滅</p>	 <p>録音入力レベルと再生出力レベルが同じになるようにテープの感度を補正しています。</p>


## 2本のテープに続けて録音する

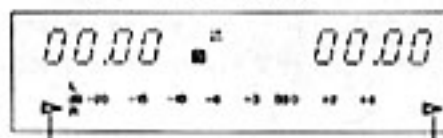
デッキ1、デッキ2で連続的に録音することで長時間の録音が行えます。



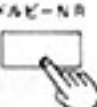
### 準備

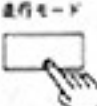
- 録音用テープのリーダーテープ部を送り出す。
- 「バランス」つまみをセンター位置にする。

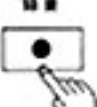
- 1**  デッキ1とデッキ2の「▲ 開/閉」ボタンを押し、両デッキに録音用テープを入れる  
再度ボタンを押すと、カセットホルダーが閉まります。




デッキ1、2共おもて面表示「▶」にしてください。


- 2**  「ドルビーNR」ボタンを押し、ドルビーNRのタイプを選ぶ

- 3**  「走行モード」ボタンを押し、「∞」モードを選ぶ  
ATCを使って録音する場合は、この後「ATC」ボタンを押してください。(両デッキ同時には行えません。順番に設定してください。)

- 4**  デッキ1とデッキ2の「● 録音」ボタンを押し  
(両デッキが録音待機状態になります。)

- 5**  録音するソースの演奏を始め、「録音レベル」つまみで録音レベルを調整する

録音レベルの調整が終わった後は、ソースの演奏を止めてください。

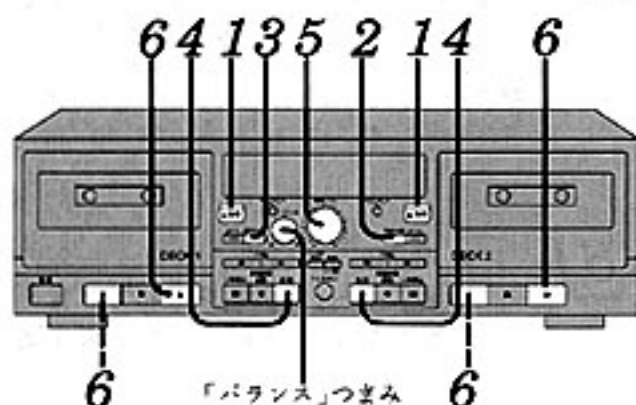
- 6**  デッキ1またはデッキ2の「▶」ボタンを押して録音を始め、録音するソースを演奏する

- 録音を一時停止するには  
一時停止 録音しているデッキの「|| 一時停止」ボタンを押す (再び始めるときは、再度押す。)

- 録音を止めるには  
録音しているデッキの「■」ボタンを押す

# 2本のテープに同時に録音する

1つのソースを、両デッキで同時に録音できます。



## 準備

- 録音用テープのリーダーテープ部を送り出す。
- 「バランス」つまみをセンター位置にする。

**1** デッキ1とデッキ2の「**▲** 開/閉」ボタンを押し、両デッキに録音用テープを入れる  
再度ボタンを押すと、カセットホルダーが閉まります。

**2** 「ドルビーNR」ボタンを押し、ドルビーNRのタイプを選ぶ

**3** 「走行モード」ボタンを押し、「**⇒**」または「**⇄**」モードを選ぶ  
⇒：片面だけ録音する場合  
⇄：両面に録音する場合

ATCを使って録音する場合は、この後「ATC」ボタンを押してください。(両デッキ同時には行えません。順番に設定してください。)

**4** デッキ1とデッキ2の「**●** 録音」ボタンを押す  
(両デッキが録音待機状態になります。)

**5** 録音するソースの演奏を始め、「録音レベル」つまみで録音レベルを調整する  
録音レベルの調整が終わった後は、ソースの演奏を止めてください。

**6** (デッキ1) デッキ1とデッキ2の「**◀**」または「**▶**」ボタンを同時に押し、録音するソースを演奏する  
(デッキ2) **ご注意** ・必ず同じ方向のボタンを押してください。  
・手順3で「**⇄**」モードを選んだときは、必ず「**▶**」ボタンを押してください。

■録音を一時停止するには  
一時停止 両デッキの「**||** 一時停止」ボタンを押す (再び始めるときは、再度押す。)

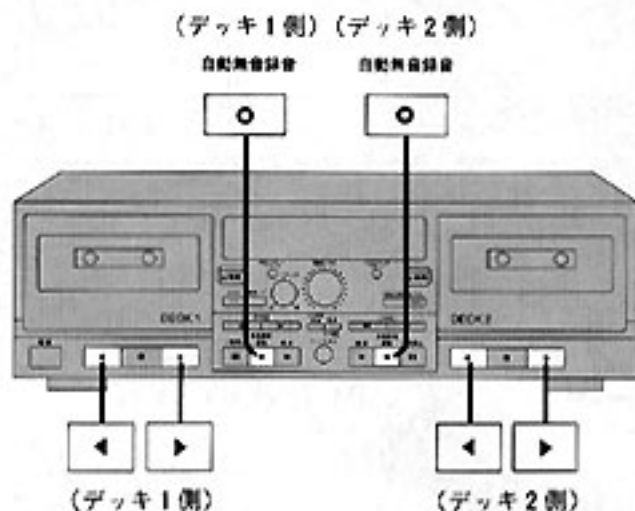
■録音を止めるには  
両デッキの「**■**」ボタンを押す

**ご参考**  
異なるソースを、両デッキで同時に録音することはできません。



## 無音部を作る

曲の頭出し(TPS機能)を正しく働かせるために曲間に4秒間の「無音部」を作ったり、不要なコマースルなどをカットできます。

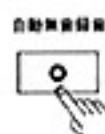


### 4秒間の「無音部」を作るには



録音中に、「● 自動無音録音」ボタンをポンと押す  
4秒間無音で録音し、自動的に録音待機状態になる。

### 4秒以上の「無音部」を作るには

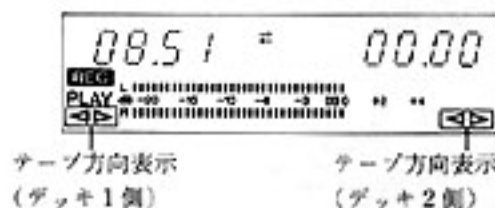


録音中に必要な時間だけ「● 自動無音録音」ボタンを押す  
ボタンを離すと録音待機状態になる。

### 再び録音するには



テープ方向表示が点灯している方の「◀」または「▶」ボタンを押す

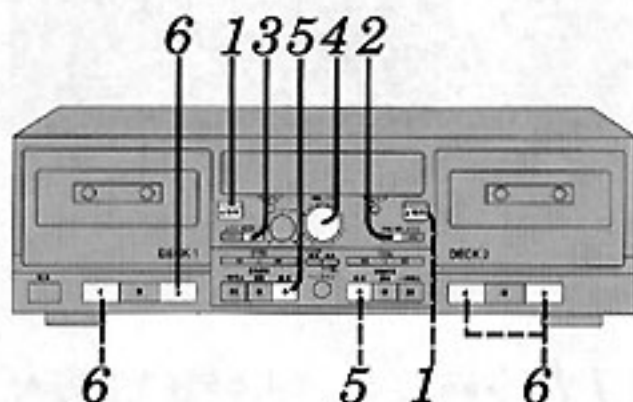


## 録音したテープの音を消す

すでに録音されたテープで新たに録音を行なうと、前の音は自動的に消去されます。

新たな録音をせずに消去したいときは、下記の方法で行ってください。

デッキ1、デッキ2どちらでも行えます。

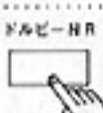


1/



デッキ1またはデッキ2の「▲ 開/閉」ボタンを押し、録音済みのテープを入れる  
再度ボタンを押すと、カセットホルダーが閉まります。

2/



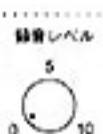
「ドルビーNR」ボタンを押し、ドルビーNR表示「B」、「C」を消灯させる

3/



「走行モード」ボタンを押し、「→」(片面消去)または「↔」(両面消去)モードを選ぶ

4/



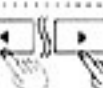
「録音レベル」つまみを「0」にする

5/



デッキ1またはデッキ2の「● 録音」ボタンを押す  
(ボタンを押したデッキが録音待機状態になります。)

6/

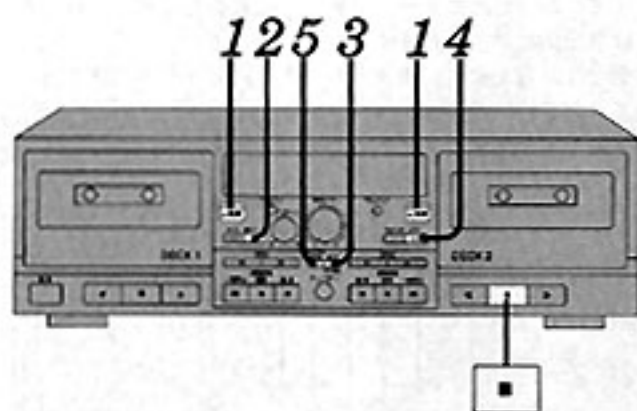


「◀」または「▶」ボタンを押して、消去を始める

**ご注意** 両面消去をするときは、必ず「▶」ボタンを押してください。

# テープからテープへ録音する

- ・デッキ1からデッキ2へ録音します。
- ・ノーマル、クローム、メタルテープが使えます



## 準備

録音用テープのリーダーテープ部を送り出す。

### 1



デッキ1とデッキ2の「▲開/閉」ボタンを押し、テープを入れる

デッキ1：再生用

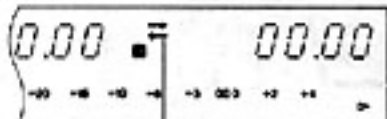
デッキ2：録音用

再度ボタンを押すと、カセットホルダーが閉まります。

### 2



「走行モード」ボタンを押し、好みの走行モードを選ぶ



ボタンを押すたびに、□ → □ → □ の順で切り換わります。

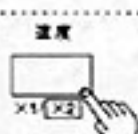
- 片面だけ録音して自動停止
- 両面（おもて面からうら面）を録音して自動停止  
録音用テープが再生用テープより長い場合には、再生用テープは録音が終わるまで、最大8回再生をくり返します。
- 両面（おもて面からうら面）を1回録音して自動停止

## ご注意

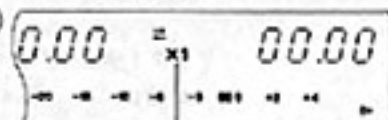
片面録音する場合には、デッキ1、2のテープ方向表示（「<」または「>」）を、それぞれ再生面、録音面に合わせてください。

両面録音する場合には、デッキ1、2共テープ方向表示をおもて面「>」に合わせてください。

### 3



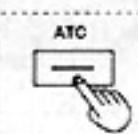
「速度」ボタンを押し、録音する速度を選ぶ



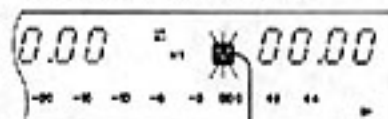
ボタンを押すたびに、x1 → x2 → 消灯の順で切り換わります。

x1：定速 x2：倍速

### 4



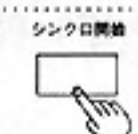
「ATC」ボタンを押す  
（M表示が点滅します。）



点滅

[ATCを設定しなくても録音は行えます]

### 5



「シンクロ開始」ボタンを押す（ATC機能が動作し始め、設定終了後、録音が始まります。）

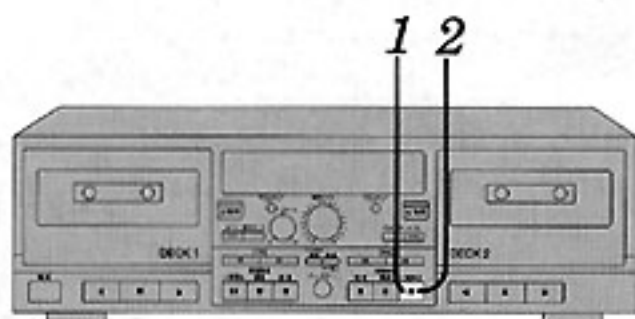
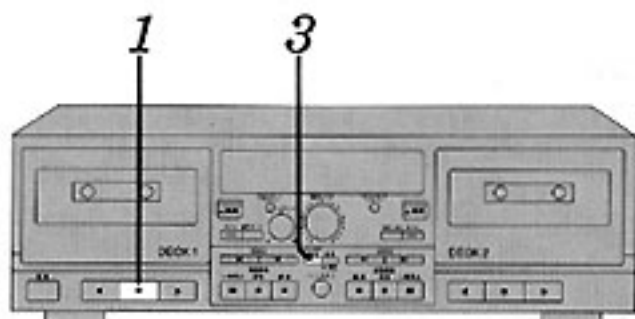
## ■録音を停止するには




デッキ2の「■」ボタンを押す

## ご注意

- ・テープからテープへの録音では、録音レベルの調整はできません。録音レベルやドルビーNRの効果は、再生テープの状態がそのまま録音されます。
- ・ダビング速度を倍速にして録音するときはテレビが近くにあると、ノイズが録音されることがありますので、テレビとの距離を離すか、テレビの電源を切って録音してください。
- ・録音終了後は、必ず「速度」ボタンを押してダビング速度表示（「x1」または「x2」）を消灯させてください。




### 好みの曲を選んで録音するには


- 1**  録音中にデッキ1の「■」ボタンを押す


(デッキ1は停止、デッキ2は4秒間の無音部を作った後、録音待機状態になります。)

- 2** デッキ1で好みの曲をさがす  
別のテープに入れ替えることもできます  
**ご参考**  
TPS機能(EP 10ページ)を使えば、曲の頭出しが便利です。

- 3**  「シンクロ開始」ボタンを押す  
(録音が始まります。)

### 録音中に不要な個所をカットするには

- 1**  一時停止 録音中にデッキ2の「|| 一時停止」ボタンを押す  
(録音していたデッキ2は、一時停止状態になり、デッキ1は再生を続けます。)

- 2**  一時停止 デッキ1で、テープが好みの位置に来たときに、デッキ2の「|| 一時停止」ボタンを押す  
(デッキ2で再度録音が始まります。)

#### ご参考


デッキ1からデッキ2へ録音される信号は、アンプを経由しないため、録音中にアンプの入力切換つまみで好みのソースを選び、演奏を楽しむことができます。

# ワイヤードリモコンを使う




ワイヤードリモコンはデッキ2専用です。  
デッキ1の操作は本体で行ってください。

詳しくは、本体の操作説明をご参照ください。



再生を始める	(うら面から) (おもて面から)	◀ PLAY ▶ <input type="button" value="◀"/> <input type="button" value="▶"/>
	巻戻し/早送りする (停止中に押す) 曲の頭出しをする (再生中に押す)	◀◀ <input type="button" value="◀◀"/> <input type="button" value="▶▶"/> ▶▶
	録音する	 ↓ (うら面) (おもて面から) ◀ PLAY ▶ <input type="button" value="◀"/> <input type="button" value="▶"/>
	無音部分を作る (録音中に押す)	○ AUTO REC MUTE <input type="button" value="○"/> 再び録音を始めるときは、録音する方向のPLAYボタン(「◀」または「▶」)を押す。
	一時的にテープを止める	PAUSE <input type="button" value="  "/> 再び始めるときは再度押す。
	テープを止める	■ STOP <input type="button" value="■"/>

## ご注意

ワイヤードリモコンで録音する場合、走行モードは「」(片面)または「」(両面)のみとし、「」モードでは行わないでください。(デッキ2で録音した後、デッキ1で録音が始まってしまいます。)



# テープについて

## 90分を越えるテープについて

長時間の使用には便利ですが、テープが薄く伸びやすいため、こきざみな走行、停止、早送り、巻戻しなどをくり返すと、テープが回転部分に巻きこまれることがありますので、ご注意ください。

テープのたるみは巻き取ってください。

テープに傷がついたり、切れる原因になります。



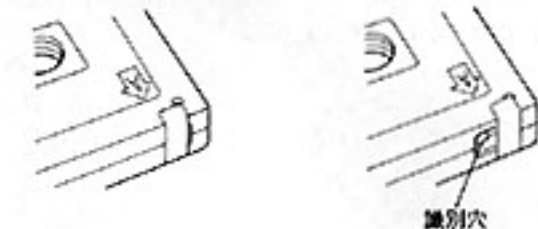
録音済みテープを誤って消さないために



もう一度録音するには

セロハンテープで穴をふさいでください。

- ノーマルテープ
- クローム、メタルテープ



**ご注意** クローム、メタルテープのテープ種類識別穴は、ふさがないでください。

保管しておくとき

次のような場所は避けてください。

- 直射日光の当たる所
- 高温（35℃以上）や高湿（80%以上）の所
- 磁気のあるところ（スピーカーの近くや、テレビの上など）

# お手入れ

## 本体のお手入れ

柔らかい布でふいてください。

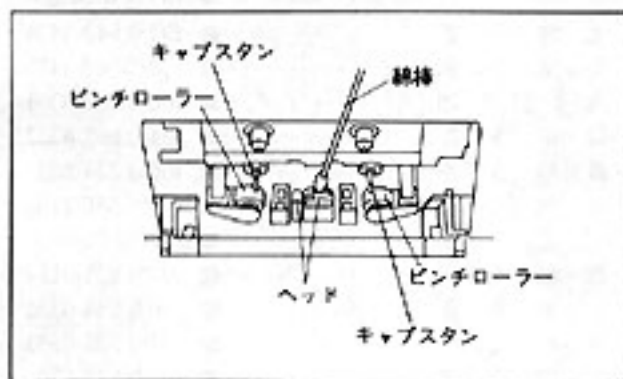
汚れがひどいときは、水か石けん水を含ませた布でふき、後は空ぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんなどをご使用のときは、その説明をご覧ください。

## ヘッド部のお手入れ

よい音質で録音・再生するために、約10時間使うたびに清掃することをおすすめします。

- 1 カセットホルダーを開ける。
- 2 アンプの電源を切るかまたは電源コードをコンセントから抜くことにより、本機の電源を切る。  
(本機の電源スイッチで切ると、カセットホルダーが閉まってしまいます。)
- 3 綿棒をアルコール液またはクリーニング液につけ、汚れを拭きとる。(クリーニングキット別売り：RP-919)



## 著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- 放送やレコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
- 従って、それらから録音したテープを、売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC)の本部、または、最寄りの支部にお尋ねください。

### 日本音楽著作権協会

本 部	電話 (03) 3502-6551
北海道支部	電話 (011) 221-5088
盛岡支部	電話 (0196) 52-3201
仙台支部	電話 (022) 264-2266
大宮支部	電話 (048) 643-5461
東京支部	電話 (03) 3562-4455
西東京支部	電話 (03) 3232-8301
横浜支部	電話 (045) 662-6551
静岡支部	電話 (054) 254-2621
中部支部	電話 (052) 586-1155
北陸支部	電話 (0762) 21-3602
京都支部	電話 (075) 251-0134
大阪支部	電話 (06) 244-0351
神戸支部	電話 (078) 322-0561
中国支部	電話 (082) 249-6362
四国支部	電話 (0878) 21-9191
九州支部	電話 (092) 441-2285
鹿児島支部	電話 (0992) 24-6211
那覇出張所	電話 (098) 863-1228

## 定格

### ■オーディオ部

トラック方式	4トラック 2チャンネルステレオ
録音方式	交流バイアス方式 80 kHz
ヘッド	
デッキ1	録音/再生 (バーマロイ) × 1 消去 (ダブルギャップフェライト) × 1
デッキ2	録音/再生 (バーマロイ) × 1 消去 (ダブルギャップフェライト) × 1
モーター	
デッキ1	キャプスタンモーター (DCサーボモーター) × 1 リールモーター (DCモーター) × 1
デッキ2	キャプスタンモーター (DCサーボモーター) × 1 リールモーター (DCモーター) × 1
ワウ・フラッター	0.07% (WRMS) ±0.14% (W. peak. EIAJ)
早巻時間	約50秒 (C-60)
周波数特性	
ノーマル	40 Hz~15 kHz, ±3 dB (EIAJ)
クローム	40 Hz~15 kHz, ±3 dB (EIAJ)
メタル	40 Hz~16 kHz, ±3 dB (EIAJ)
S/N比 (クロームタイプテープ)	
NR off	56 dB (WTD 1 kHz, 3% 第3次ひずみ率) 54 dB (EIAJ)
Dolby B NR on	66 dB (WTD 1 kHz, 3% 第3次ひずみ率)
Dolby C NR on	74 dB (WTD 1 kHz, 3% 第3次ひずみ率)
入力感度/入力インピーダンス	
録音	100 mV/47 kΩ
出力電圧/出力インピーダンス	
再生	500 mV/500 Ω
ヘッドホン	30 mV/(8 Ω) (負荷インピーダンス 8~600 Ω)

### ■総合

電源	AC 100V, 50/60 Hz
消費電力	22 W 3 W (電源オフ時)
寸法 (幅×高さ×奥行)	430×136×285 mm
重量	4.4 kg

注) この定格は、性能向上のため変更することがあります。

# 故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは	ここをご確認ください	処置
テープは走行するが再生音が出ない。	接続コードの「録音」と「再生」が逆になっていませんか。	接続コードを正しく接続する。
音が小さい、音が途切れる。 音質がよくない。雑音が多い。 音がかすれたり、ふるえる。 録音きれいにできない。	ヘッド部が汚れていませんか。	ヘッド部、ピンチローラー、キャプスタンを清掃する。
	ピンチローラー、キャプスタンに異物が付着していませんか。	
	ヘッド部が磁気を帯びていませんか。	市販のヘッド消磁器で消磁する。
	ドルビーNRの切り換えが間違っていますか。	ドルビーNR切り換えを、録音時の状態に合わせる。
「●録音」ボタンを押しても録音待機状態にならない。	ダビング速度表示("×1"または"×2")が点灯していませんか。	「速度」ボタンを押し、表示を消灯させる。
録音ができない。	録音用のつめを折っていませんか。	つめを折った部分にテープを貼る。
	録音レベル調整つまみの位置が「0」になっていませんか。	録音レベル調整つまみを適切なレベルに合わせる。
リモコン操作ができない。	乾電池の⊕、⊖が逆になっていませんか。	⊕、⊖を正しく入れる。
	乾電池が消耗していませんか。	新しい乾電池と交換する。

# アフターサービスについて

## 保証書（別に添付してあります。）

保証書は、必ず「お買い上げ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間 —— お買い上げ日から1年間

## 修理を依頼される時

23ページの「故障かな!？」に従って調べていただき、直らないときには必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

### ●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が出張修理をさせていただきます。お買い上げの販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「お客様相談センター」（別紙）にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・品番・お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日

## ●保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店へご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「お客様相談センター」（別紙）にご連絡ください。

## 補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。

## アフターサービスなどについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または、お近くの「お客様相談センター」（別紙）にお問い合わせください。

## 便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	電話（ ） —	お買い上げ日	年 月 日
お近くの当社 ご相談センター	電話（ ） —	品 番	RS-TR4750



松下電器産業株式会社 AVC ネットワーク事業グループ

〒571-8505 大阪府門真市松生町1番4号

RQT2366-T

H0594G4061